

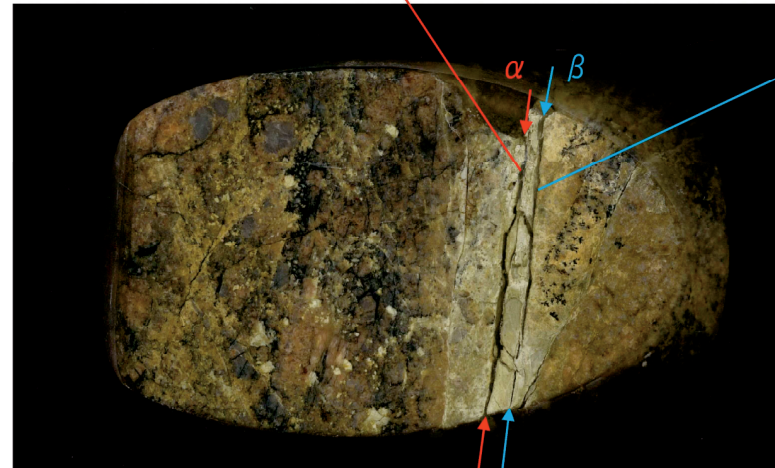
H24-D1-2深度12.38~12.97m 最新活動面の深度 (No.最-28) を変更

## H24-D1-2 深度12.38~12.97m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 $\alpha$ 、断層面 $\beta$ が認められる。
- ・断層面 $\alpha$ は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しい。不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 $\beta$ は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度12.87mの断層面 $\beta$ を検討対象の断層面とした。

研磨片写真

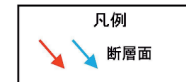
湾曲及び凹凸が認められるが、不連続部は認められない



湾曲及び凹凸が少なく、不連続部も認められない

孔口側

孔底側



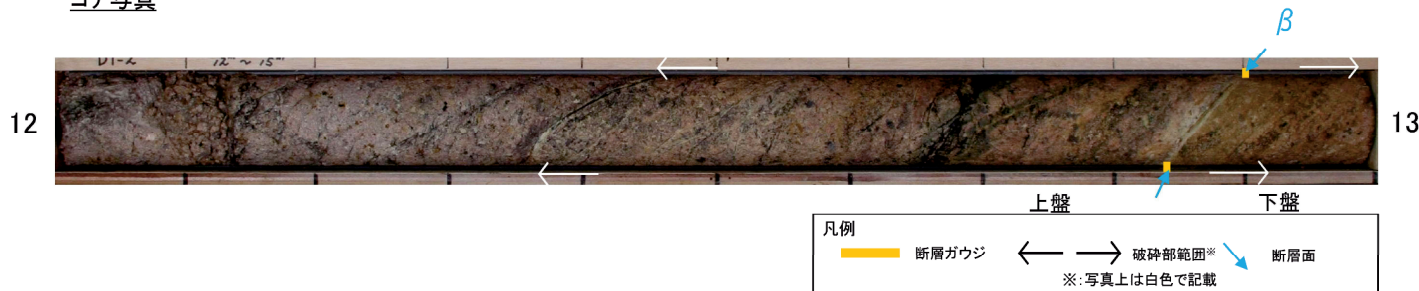
5 cm

H24-D1-2深度12.38~12.97m 最新活動面の深度 (No.最-28) を変更

### H24-D1-2 深度12.38~12.97m 薄片作製位置

・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



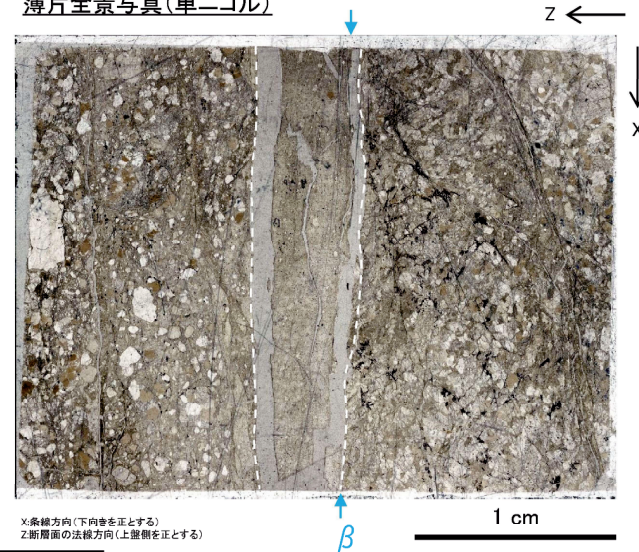
薄片作製位置写真



X: 縦方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X: 縦方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

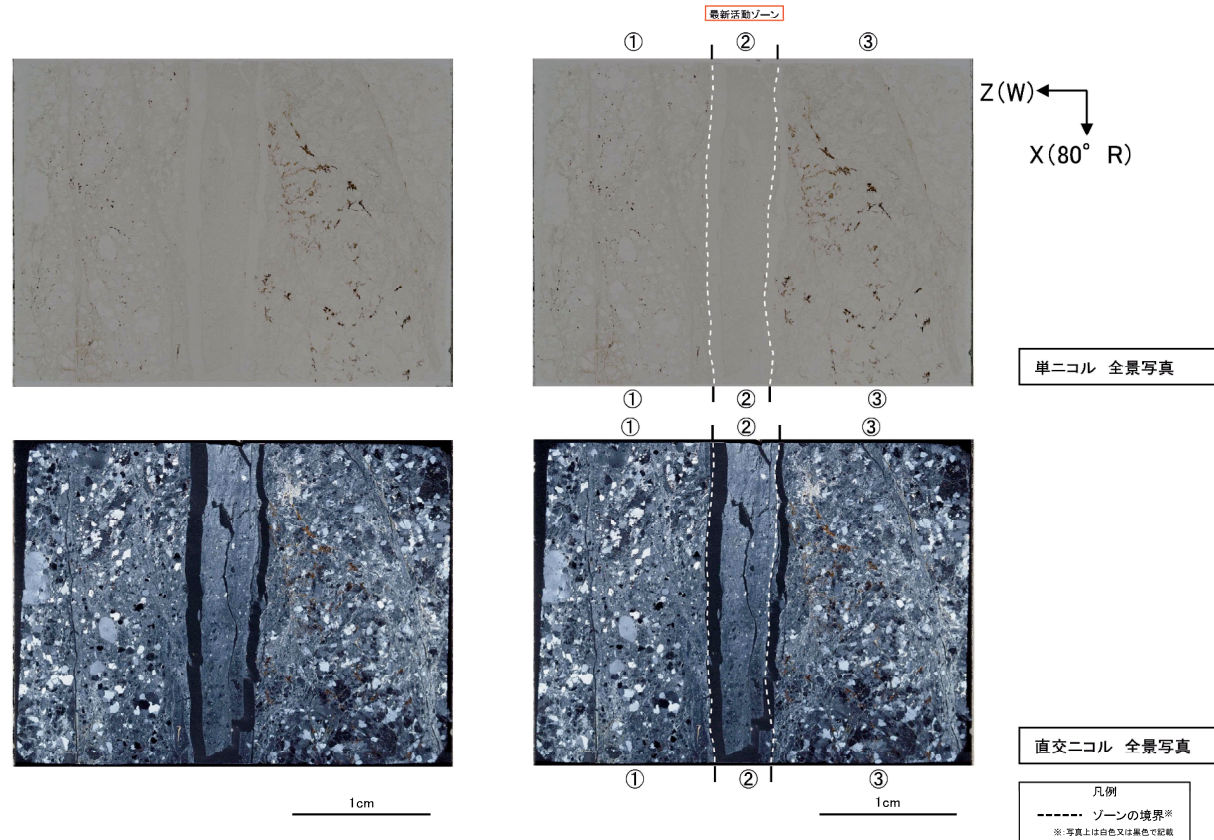
1 cm

凡例  
 ↓ 断層面  
 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載

H24-D1-2深度12.38~12.97m 最新活動面の深度 (No.最-28) を変更

H24-D1-2 深度12.38~12.97m 薄片観察 分帯

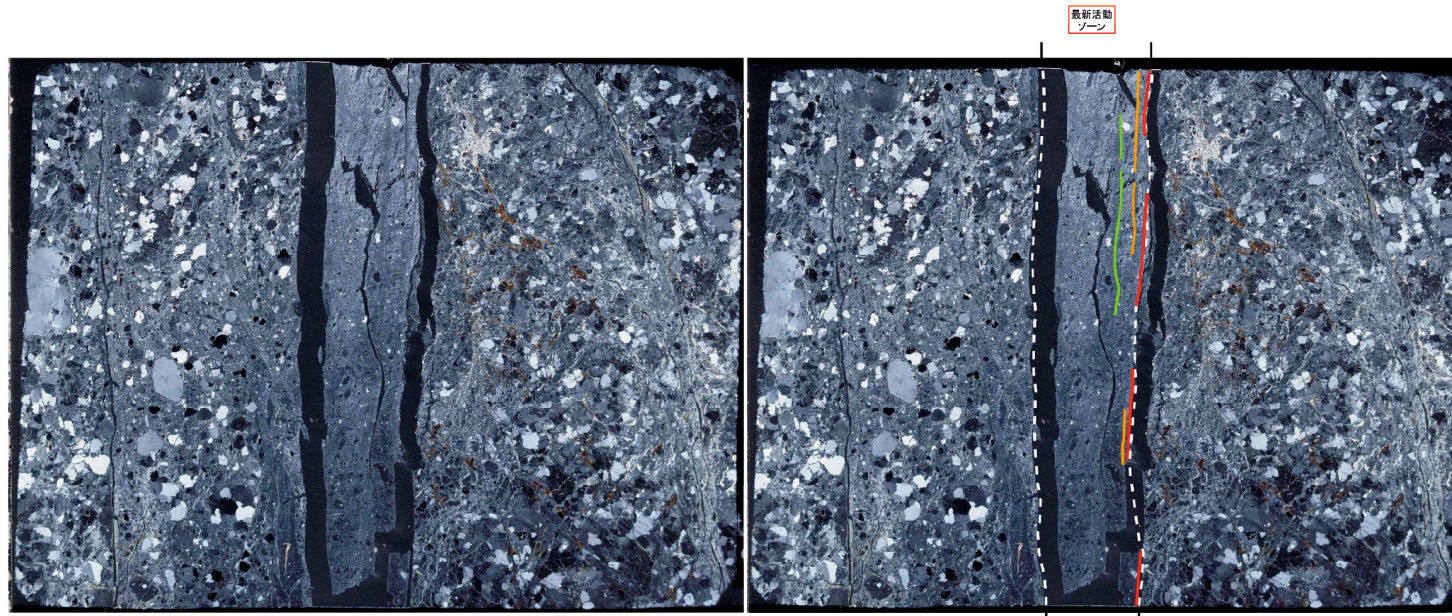
- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
  - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は多いが、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく、丸みを帯びている岩片が多い。
  - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



H24-D1-2深度12.38~12.97m 最新活動面の深度 (No.最-28) を変更

H24-D1-2 深度12.38~12.97m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度12.87mにおける断層面β沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面A、Y面B、Y面Cが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは直線性に富み、連続性に富む。細粒部を伴う。他の面に比べて連続性・直線性に富む。
- ・Y面Bは直線性に富み、連続性はやや乏しい。細粒部を伴う。
- ・Y面Cは直線性はやや乏しく、連続性もやや乏しい。細粒部を伴う。
- ・以上のことから、Y面Aを最新活動面と認定した。

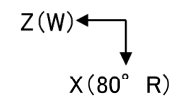


直交ニコル 全景写真

1cm

直交ニコル 全景写真

1cm



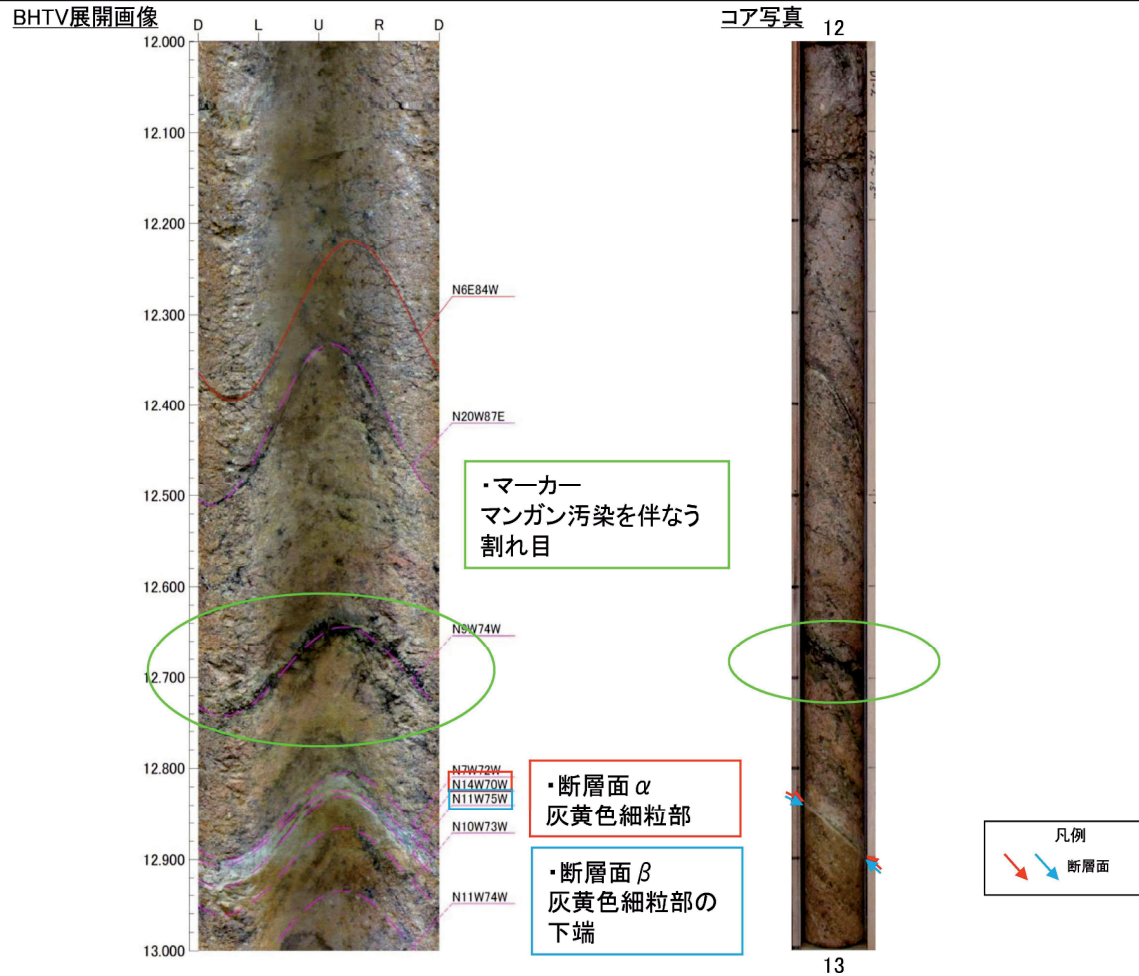
- 凡例
- Y面A (Red line)
  - Y面B (Orange line)
  - Y面C (Green line)
  - - - 最新活動ゾーン※ (Dashed line)
- ※ 写真上は白色又は黒色で記載

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない

H24-D1-2深度12.38~12.97mの最新活動面の深度 (No.最-28) の変更に伴い走向・傾斜 (No.最-29) を変更

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-D1-2 深度12.38~12.97m)

- ・ H24-D1-2 深度12.38~12.97mの破碎部の断層面  $\alpha$  の走向・傾斜はN14° W70° Wである。
- ・断層面  $\beta$  の走向・傾斜はN11° W75° Wである。



**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・最新活動面を断層ガウジの上端に変更（深度差1cm以下のため深度標記は変更なし）（No.最-30）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-30）

b ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-30）

H24-D1-3深度34.23~34.52m 最新活動面の深度 (No.最-30) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-34頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

2-D-1 破砕帯  
性状一覧表(6/12)

No.105で説明

No.最-30  
(赤矢印位置)

破砕帯 番号	破砕帯 深度 (m)	破砕帯 長さ (m)	破砕帯 幅 (m)	破砕帯 厚 (m)	破砕帯 傾斜 (°)	破砕帯 方位	破砕帯 形状	破砕帯 色	破砕帯 質感	破砕帯 備考	性状		写真	
											性状	備考		
104-D1-1 (破砕帯7)	-	-	100	600	1.5	平	平	黄	粗	1	104	正	-	
107-D1-4 (破砕帯4)	59.82	59.85	N25E	80W	2.5	0.7	有	平	黄	粗	100	正	-	
107-D1-5 (破砕帯5)	61.20	61.68	N10E	80W	20.0	1.5	有	平	黄	粗	90	正	-	
104-D1-2 (破砕帯2)	108.18	108.66	N10E	70W	7.0	2.0	有	平	黄	粗	100	正	105	
104-D1-3 (破砕帯3)	34.23	34.52	N120E	80W	18.0	0.8	有	平	黄	粗	70L	正	-	
104-D1-6 (破砕帯6)	12.36	12.97	N140E	70W	41.7	0.8	有	平	黄	粗	80W	正	-	
104-D1-4 (破砕帯4)	10.91	10.95	N120E	70W	1.0	1.8	有	平	黄	粗	80L	正	-	

凡例  

 最新活動面 ← → : 破砕帯  
 断面がワジ : 断面が傾斜  
 赤矢印 : 破砕帯の走向傾斜から算出された傾斜

【破砕帯】  
 地上状況破砕帯、形状破砕帯、角礫状破砕帯、  
 間隙した粘土状破砕帯、間隙した砂状破砕帯、間隙した角礫状破砕帯  
 の合計の値とし、破砕帯の走向傾斜から算出された傾斜を記載した。

【参考2-34】  
 ※ 注 最新活動面が直線的なものの  
 非平滑 最新活動面が湾曲するもの

参考2-34

No.105で説明

No.最-30  
(赤矢印位置)

破砕帯 番号	破砕帯 深度 (m)	破砕帯 長さ (m)	破砕帯 幅 (m)	破砕帯 厚 (m)	破砕帯 傾斜 (°)	破砕帯 方位	破砕帯 形状	破砕帯 色	破砕帯 質感	破砕帯 備考	性状		写真	
											性状	備考		
104-D1-1 (破砕帯7)	59.82	59.85	N25E	80W	2.5	0.7	有	平	黄	粗	100	正	-	
104-D1-3 (破砕帯3)	34.23	34.52	N120E	80W	18.0	0.8	有	平	黄	粗	70L	正	-	
104-D1-5 (破砕帯5)	61.20	61.68	N10E	80W	20.0	1.5	有	平	黄	粗	90	正	-	
104-D1-6 (破砕帯6)	12.36	12.97	N140E	70W	41.7	0.8	有	平	黄	粗	80W	正	-	
104-D1-4 (破砕帯4)	10.91	10.95	N120E	70W	1.0	1.8	有	平	黄	粗	80L	正	-	

凡例  

 : 最新活動面 ← → : 破砕帯  
 カラーバーが付いていない区間はカラーサイトを示す  
 断面がワジ : 断面が傾斜  
 断面が傾斜

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、赤矢印「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を修正した値を記載  
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(固成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
 - (上記以外) : データを取得していない箇所

H24-D1-3深度34.23~34.52m 最新活動面の深度 (No.最-30) を変更

従前

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

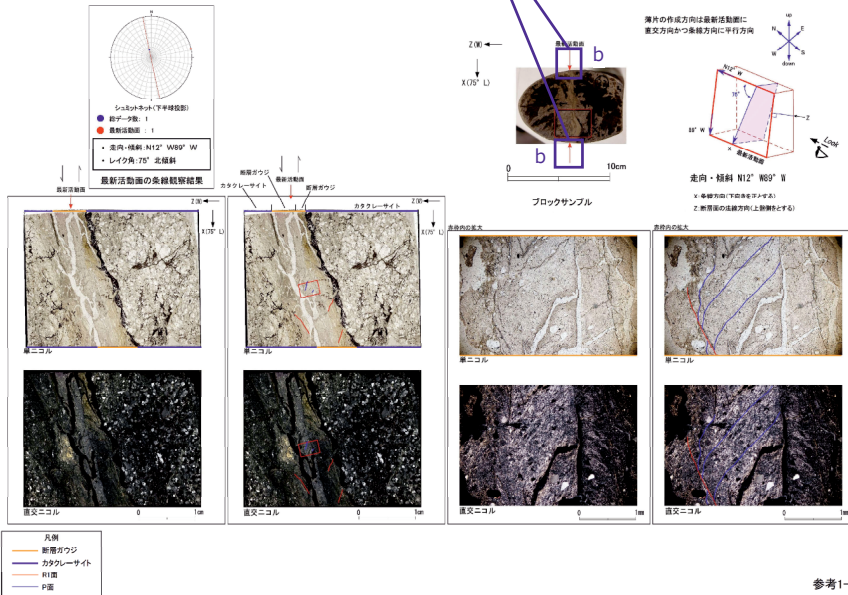
参考1-31頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.最-30  
(赤矢印位置)

D-1破砕帯 薄片試料観察(H24-D1-3 深度34.40m)

H24-D1-3のボーリングコア(深度34.40m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



参考1-31

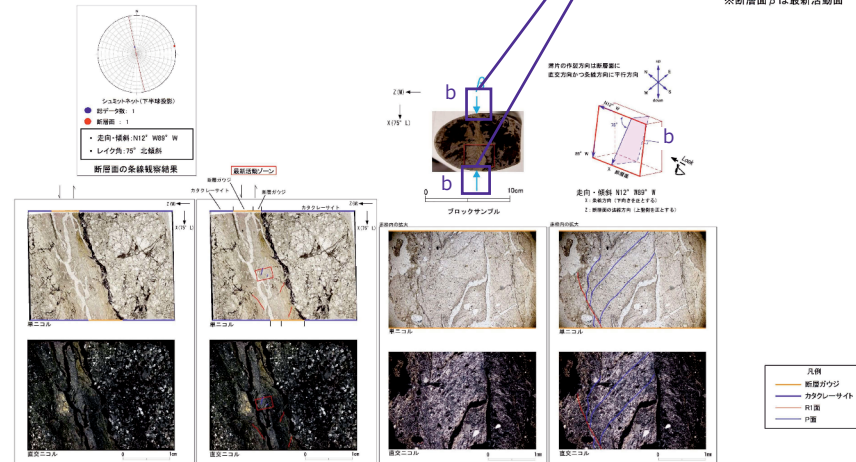
見直し後

No.最-30  
(青矢印位置)

H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーン(以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。  
 > (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。  
 > (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
 > (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
 > 岩片は少ない。  
 > (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。  
 > (断層ガウジ)レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。

※断層面βは最新活動面

6-7-1140



第7.4.4.321図(3) 破砕部性状 H24-D1-3 深度34.23~34.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))